

4-1 北九州モデルの概要

(1) 北九州モデルの確立

本市は、平成 28 年 1 月に国家戦略特区の指定を受け、ICT・介護ロボット等を活用した介護職員の負担軽減、介護サービスの質の向上、さらには利用者の QOL 向上を目指す取り組みを行ってきました。

その成果を踏まえ、介護現場の生産性を高める働き方の実現に向けた「ICT・介護ロボット等の活用を含む業務マネジメント」と「弾力的な人員配置」を包含する、介護施設における抜本的な業務改善の方法である「北九州モデル」を確立しました。

(2) 北九州モデルの内容

この北九州モデルは、ユニット型の特別養護老人ホームでの実証結果を基にまとめたものですが、従来型の施設及びその他の施設・居住系サービスにおいても業務改善のヒントとなるモデルとなっています。

さらに、ICT・介護ロボット等を活用することで、遠隔から連絡をとりあえたり、感染リスクとなる不必要な接触を低減できるなど、感染症予防にも役立つ内容となっています。

(3) 北九州モデル導入のためのガイドライン

現在、本市では、北九州モデルを導入・実践していく上で必要となる業務改善の手順や方法等を示したガイドラインを作成中です。

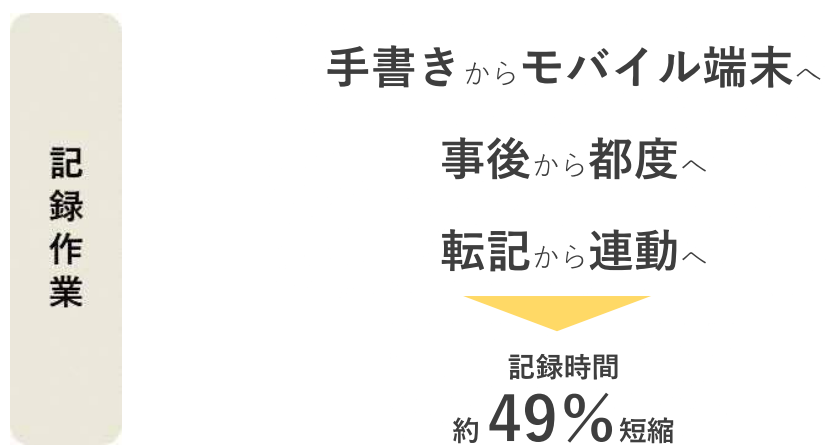
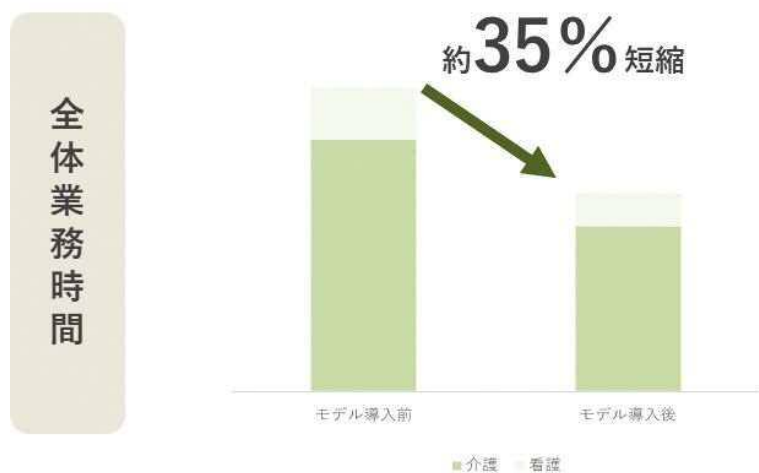
これにより施設系サービスを運営する法人代表者や施設管理者をはじめとする介護現場の関係者の皆様が、北九州モデルを導入・実践される際の手引きとしてご活用いただけることを目指しています。

4-2 北九州モデルでできること（令和元年度の実証結果より）

（1）大幅な業務改善の実現

本市が実施した北九州モデルの導入実証により、介護現場の業務負担を大幅に軽減できることが確認できました。

実証結果では、人員配置は「2：1」→「2.87：1」を実現できました。



夜
間
の
体
制

定期巡回から随時訪室へ

巡回からモニターへ

安全保持 + 質の向上

夜勤配置人数 ▲ 1 人

1人あたり夜勤回数 ▲ 2 回/月

(2) 介護サービスの維持・向上

人員配置の最適化と合わせて介護の質を維持しつつ、さらに向上に繋がる活動も見られました。

その結果、利用者により良いケアを提供できるようになりました。

安
全
性

アクシデント発生率

変化なし

介
護
の
質

直接介助業務時間 2割増加

利用者 QOL レベル 保持

日中の覚醒 改善

職員 1 人あたりの
利用者との会話時間 **2.5 倍**

職員間交流 **タイムリー**

(3) 職員の満足度とやりがい向上、組織の体質改善

職員のモチベーションが上がって、職員同士がより連携を取るようになりました。

【介護職員の声】

“精神的に楽になり、気持ちが利用者のケアに集中できて、1日を丁寧に過ごすことができました。”

“利用者の笑顔を見ながらみんなで楽しく取り組みました。雰囲気良くなり、士気も上がりました。”

【看護職員の声】

“中身の濃い業務ができて、モチベーションが上がりました。自分の中で火がついた。”

“自主的に考えるようになり、業務も軽減されたので、ユニットにいる時間が長くなって、介護職員とより連携を取るようになりました。”

【施設管理者の声】

“介護と看護以外の職員も意識が変わって、現場に協力する姿勢がみえて、協力体制ができました。”

“この新しい働き方の本質には、現場の意識改革も含まれていて、変化に対応できた成功体験を重ねることで、現場が自主的に動くようになりました。”